

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0590
施設名	昭島ゆりかご第二保育園
施設所在地	昭島市田中町3-5-20
法人名	社会福祉法人ゆりかご会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な自然や天然素材の不思議

<テーマの設定理由>

- ・夏の水遊びの発展、延長。探求心を育む。
- ・水の感触がひんやりと気持ちいいことは知っているが、同じ水が氷に変わる不思議さに触れる。
- ・冷たさや溶ける様子を五感で楽しむ感触遊びにつなげていく。

2. 活動スケジュール

- ・水遊びでは、水の「ひんやり」としてや気持ちいい感覚を十分に体験する。(7月、8月)
- ・粒氷や色水氷遊びを設定する。(水の感触に慣れ、親しみを持って遊べるようになった頃)
「貝殻や身近な玩具と共に凍らせる」

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備した素材】

- ・食紅で入り付けした氷(青、赤、緑)、玩具や貝殻入り氷、粒氷、氷(お弁当箱サイズ)、スコップ

【環境設定】

- ・冷たい氷の感触や、溶けて水に変化する不思議さを通して、五感を刺激し、自然の現象に興味をもてるようにする。
- ・氷水は万が一口にしても安全に遊べるよう食紅を使用し、事前に冷凍庫で冷やしておく。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・水遊びを通して水に触れる心地よさを感じながら
楽しく遊ぶ。(6, 7, 8月)
- ・水の冷たさや流れる感触、飛び散る水滴など
様々な感覚を肌で感じる。(6, 7, 8月)
- ・「氷遊び(食紅)色水遊び」 夏の自然に親しみながら
興味や関心などを広げていけるよう水遊びを発展
させていく。(8月26日)



<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

氷が溶けていく様子が分かりやすく感じられるよう導入として室内で角氷を提供した。一人に一個以上手渡し実際に触れて、冷たさ溶けていく様子を感じてもらった。机の上で氷を触り、氷が溶けた水分で角氷が滑っていく様子を楽しみ、友だちへパスして楽しむ姿があった。個々に氷に触れるだけになってしまったかと思ったが皆でテーブルアイスホッケーができ、遊びが発展していった。普段の水遊びプラス色水氷という新しい出会いに興味、関心を持ち、だんだん溶けて形が変わっていく様子やぽたぽたと水滴が垂れる様子も楽しんでた。

冬季、戸外遊びにて、つららや氷を見つけた。

後日、図鑑を見ている時に「雪の結晶」や「つらら」を見つけ、指さしながら実体験と結びつけ、大喜びしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

氷を作る際、車や貝殻を一緒に凍らせていたが徐々に溶けて形があらわになっていく様子を楽しむ姿があった。指先でこすって車を取ろうとしたり無心で氷と関わる姿があり、水遊びを楽しんできた今だからこそ変化や発展させた遊びに夢中になれるのだと感じた。氷が溶けると色水に変わり、混色を楽しんだり、鮮やかな色の色水を見立てあそびで楽しむ姿もあった。

当初の予定では夏季に氷遊びを行い、興味を広げていくという形で考えていた。しかし、冬季の雪遊びでは、つららや遊具に張った氷を見つけ、再び手に持っている冷たかった感覚や溶けてなくなってしまう様子を夏季の氷遊び経験とも照らし合わせながら探求していくことができた。こんなにも長い時間をかけて「身近な自然や天然素材の不思議」というテーマで子どもたちと探求していくことができ、興味の継続やつながり、思いがけない発展ができたことを嬉しく思った。